

平成 21 年 5 月 1 日現在

研究種目：基盤研究 C

研究期間：平成 18-21 年

課題番号：18510234

研究課題名(和文) 理系女性育成の阻害要因及び女性のキャリア育成のための情報科学教育の日韓比較調査

研究課題名(英文) International comparative study in Japan and Republic of Korea on the factors hindering from nurturing female scientists and appropriate information science education for women's career development

研究代表者 橋本ヒロ子

研究分野：ジェンダー

科研費の分科・細目：ジェンダー

キーワード：キャリア開発、女子学生、科学技術、情報科学、韓国

## 1. 研究計画の概要

日韓女子大学における情報科学専攻学生の情報科学に対する意識やキャリア形成に関する比較調査を実施し、その結果を多様な側面から分析し女子大学における情報科学教育のモデルカリキュラムを作成する。

また、理系女性育成の阻害要因を調査するため、理系女子高校生の日韓比較調査を実施して、女子高校生の理系専攻阻害及び促進要因を見つける。

## 2. 研究の進捗状況

日韓比較調査を女子大学(日本 津田塾大学情報科学科、十文字学園女子大学社会情報学部 DT コースおよび叔明女子大学情報科学学部)で実施しただけでなく、日本では共学大学(札幌学院大学社会情報学部)の情報科学系ゼミの女子学生についても、少数ではあるが、今年度調査を実施し、今後分析予定。

韓国で実施された梨花女子大学附属女子高校の理系高校生を対象にした調査の項目をもとに、日本のスーパーサイエンスハイスクール(浦和第1女子高校、川越女子高校)の女子高校の生徒の調査を実施し分析した。その結果、理系女子高校生の日韓の違い、高校による違いが出てきた。

## 3. 現在までの達成度

日韓で理系女子高校生、情報科学を専攻する女子学生の違いはある程度浮き彫りになり、日本における女子学生対象の情報科学教育カリキュラムの在り方についても、方向性が見えてきた。

## 4. 今後の研究の推進方策

今年度は、女子大学における情報教育のモデルカリキュラム案をまとめるほか、共学高校の理系女子高校生の調査を実施して、分析に加え、全体の報告書をまとめる予定

理系、特に情報科学を女性が専攻する阻害要因について、継続した研究の必要性が見えてきた。

## 5. 代表的な研究成果

〔雑誌論文〕(計 0 件)

〔学会発表〕(計 2 件)

橋本ヒロ子、中尾茂子：平成 19 年度日本教育情報学会大会

橋本ヒロ子、亀田温子：平成 20 年度日本女性学会大会

〔図書〕(計 0 件)

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

取得状況(計 0 件)

〔その他〕